

## 日本武尊（やまとたけるのみこと）と熱田界限

### 熱田神宮

三種の神器の一つ草薙神剣を祀ったのが神宮の起源で、社が鎮座されたのは景行天皇の末年頃(2世紀初め)とされています。古くから「熱田さん」と呼ばれ、6月5日の熱田まつり(尚武(しょうぶ)祭)で親しまれています。本宮、拝殿、神楽殿などのほか、別宮の八剣宮、摂社の上知我麻神社など、境内には摂社8、末社18が鎮座。歴史的建造物として、清雪門、西楽所、龍影閣、信長堀、佐久間灯籠、二十五丁橋などがあります。宝物館には、刀剣、鏡など6,000余点があり、公開されています。

### 御陵墓祭

熱田神宮の近くには、断夫山古墳（だんぷさんこふん）や白鳥古墳（しらとりこふん）といった大型の古墳が残されており、これらの古墳には古くから、熱田神宮創始の神話に登場する宮簀媛命（みやすひめのみこと）や日本武尊（やまとたけるのみこと）の御墓との伝承があります。白鳥古墳は、日本武尊が死後、白鳥に姿を変えて飛び立った伝説に由来するとされ、熱田神宮では現在も日本武尊の御陵として、断夫山古墳とあわせて御陵墓祭を行っています。

### 断夫山古墳

東海地方最大の前方後円墳。6世紀初頭の築造で全長約151メートル。古来、日本武尊(やまとたけるのみこと)の妃（きさき）宮簀媛命（みやすひめのみこと）の御墓と伝えられていたが、現在では尾張氏の墓と考えられています。国の指定史跡。

### 白鳥古墳

全長約74メートルの前方後円墳。6世紀初め頃の築造。古くは日本武尊の墓と伝えられていたが、尾張氏の墓と考えられています。境内入口に本居宣長の歌碑があります。

### 「白鳥」の呼び名

日本武尊の白鳥伝説にちなむ「白鳥」の名称は広く熱田に定着しています。熱田には、断夫山古墳に近接する白鳥古墳、白鳥庭園、白鳥小学校のように、白鳥伝説にちなんだ名称の施設が多く、「白鳥」の呼び名は熱田の地域に定着しています。